

P2 *Agaricus blazei* 子実体の冷水ならびに熱水抽出画分の免疫修飾作用の解析

○古川 麻衣¹、鬼塚 直幸²、三浦 典子²、
安達 禎之²、元井 益郎³、大野 尚仁^{1,2}
1 (東京薬大・生命)、2(同・薬)、3(東栄新薬)

【目的】*Agaricus blazei* の子実体・菌糸体ならびにそれらの抽出物は免疫機能強化を目的として汎用されているが、作用機構は詳細には解析されていない。我々も子実体のβグルカン画分がマウスに抗腫瘍作用を発揮することを既に報告した。本研究では子実体の冷水 (CWE) ならびに熱水 (HWE) 抽出画分のヒト末梢血ならびにマウスのサイトカイン産生能について解析した。

【方法】粉砕した茸(2g/20mL)を生理食塩水に懸濁し、オートクレーブ (120°C,20min) 処理および冷水抽出(4°C,1day) を行い HWE 並びに CWE を調製した。

【結果】1) ConA 刺激による IL-6 産生: BALB/c マウスに両画分を経口投与 (0.2mL ずつ7日間1日1回) 後、Con A (20mg/kg) を静脈内投与した。投与3時間後に全採血し、血中 IL-6 産生を比較した。その結果 CWE 投与群で産生量が低下した。2) プライミングしたマウスへの LPS 刺激による TNFα 産生: ICR マウスにプライミング剤としてβグルカン(200μg)を腹腔内投与した。このマウスに両画分を経口投与 (0.2mL ずつ7日間1日1回) 後、LPS(10 μg/mouse)を静脈内投与した。投与90分後に全採血し、血中 TNFα 産生を比較した。その結果、HWE 投与群で産生量が増加した。3) ヒト末梢血白血球の IL-8 産生: 健常人から採血した白血球に両画分を混和・培養し、IL-8 産生を評価した。その結果、両画分共に強い活性を示した。

【考察】抗腫瘍活性を示すβグルカンはアルカリ抽出物に高率に含まれることを報告した。本研究において、サイトカイン産生の修飾はCWEならびにHWEにおいて認められたことから、活性物質は複数存在し、活性ごとに異なる物質が寄与している可能性のあることを更に強く示唆した。